１６．親元就農した後継者に対する経営改善に向けた普及指導活動

中部振興局
〇三輪友樹

１．背景

中部振興局では、これまで将来経営を担う後継者を中心に増頭の推進、飼養管理の指導等を進めており、1戸あたりの繁殖雌牛の飼養頭数は9.5頭(H22年)から13頭(H30年)、去勢子牛出荷時DG1.0kg以上率は76%(H26年)から82%(H30年)に増加に推移している。今回、県農業大学校を卒業後に畜産経営を継ぐために親元就農をした後継者に対して、平成26年から現在まで重点的に普及指導活動を行ってきたので、その事例を紹介する。

２．指導対象農場の現状

<経営形態>肉用牛繁殖 <飼養頭数>繁殖牛27頭 <施設>牛舎2棟、堆肥舎1棟、パドック他 <労働力>父母、後継者計3人 <その他>水稲5ha、WCS3ha、牧草3ha

３．活動内容

後継者が経営者として自立するための支援策の一環として、子牛が市場出荷までの約9ヵ月間にどのように発育しているのか、出荷時の差がどの時点で始まるのかを探るため、哺乳期の飼料の採食量調査及び出荷までの発育調査を後継者と共に行い、採食状況や発育推移と出荷成績との関連性について検討・改善を行った。

（１）現状の把握及び対策

子牛が市場出荷までどのように発育しているのか発育調査を行い、毎月の体側(体高、胸囲、腹囲)及び採食状況の調査を実施した。

（２）対策

出荷時における日齢体重が低い子牛は各ステージにおいて飼料充足率が足りていないことが判明したため、下記の2課題について改善を行った。

① 哺育期(0～3ヵ月齢)におけるミルク濃度の変更並びにバーデンスタートの活用

② 育成期(3～9ヵ月齢)における給与量の見直しによる飼料充足率の改善

（３）結果

上記の対策を実施した結果、子牛の体高は対策実施前の平成27年は2σと標準との間であったが、対策実施後の平成29年は2σを超える発育をした個体も多く、全体的に体高が伸びた。去勢子牛出荷成績についても、平成27年には出荷時日齢体重1.03kg/日、販売価格629千円であったが、平成30年には出荷時日齢体重1.12kg/日(0.09kg/日増)、販売価格820千円(191千円増)となり大きな改善が見られた。